

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500023		
法人名	医療法人ブルースカイ		
事業所名	グループホーム スマイル (憩)		
所在地	香川県観音寺市黒町750番地		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は様々な取り組みを通じて、認知症の改善・行動障害が軽減し安心して生活ができるよう支援している。具体的な取り組みとして  
①散歩や運動プログラムを日課に取り入れ、体力の低下を防ぐ  
②脳リハビリの実施(日付や曜日の確認から始め、毎日様々なプログラムに取り組んでいる)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 9 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院の医療連携に加えて、人と人との絆づくりを大切にしている施設であった。地域の方とのご縁も深く、かつて身近な催しをしていた小岡(こおか)なごみの会に参加して、作品の創作や健康を促す体操を行い、馴染みの関係を深めていた。また再開したいという気持ちがあり、今できることを今しかないと思っていた。「人間関係は、活発なコミュニケーションが必要である。」と管理者は語った。自分をさらけ出し、「考え方や指導の仕方をどうしたらよいか？」と職員に尋ね、柔らかい言葉遣いをしながら、悟るように伝えたら、職員は必ずわかってくれるトーンに変わってきてくれた。スピーチロックも、「働く」原点を「傍を楽にする」という言葉どおり行動することで、スピーチロックにならないようになった。脳リハの一環として、食事や散歩も利用者本人に無理強いをせず、利用者に合わせ、職員も笑顔で、受け止めてきた。しかし、管理者は、信頼関係があると思いき、優しく注意したつもりが、「意外に言い方がきつくて、インパクトが強すぎます。」との意見を頂き、真摯に受け止めたそうだ。利用者に高い介護を目指すには、日頃からのコミュニケーションが必要であると語る。理想の姿をまぶたの裏に焼き付け、現在の気づきや思いを急がずに、一つ一つ丁寧に充実させ、関係性を深めようとしている。中でも利用者のお悔み後に、「ここにいてよかった！」との利用者の家族からの一言付け足した手紙が、涙を誘うだけでなく、管理者、職員の介護の心を静かに後押しした。人の信頼関係に重きを置く施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先や事務所内の目に付く所に理念を掲示し、毎朝の朝礼において職員全員で復唱し意識づけると共に、年度ごとの目標を掲げ具体的にケアの方向性を定めている。	理念は玄関と事務所に掲示し、朝礼時には復唱している。「体すこやか・脳いきいき・笑顔きらきら、いつまでも」の理念に沿った介護を日々実践している。グループホーム内での毎年の目標も考えている。	今年度の目標を明確化して、地域や外部の人にも知って頂いては、いかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、思うように交流できていない。地元の公民館に文化祭の作品を出展し入居者と見学に行った。	今年度は地元の公民館に利用者と一緒に創作した作品の展示をすることができた。施設から防災訓練に参加してほしいとの要望を伝えたら、地域の方が参加してくれたことがあった。コロナ前には地域のサロンで開催していた、創作活動や体操に参加していた。併設する病院や近隣であった方と挨拶を交わす関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症についての講義を行い、地域に向けて開かれたホームを目指し、住民から理解が得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、参加者から率直なご意見をいただき質の向上に努めると共に、ホームにおいて日頃取り組んでいることを報告し、理解が得られるよう行っている。	自治会長、社協会長、老人クラブ会長、地域住民代表、市の職員、民生委員、地区会長、家族・利用者代表、管理者、ケアセンターの事務長が参加している。対面式で短時間での開催。入居者状況、行事の企画、コロナ対策について話合った。不参加の方には書面を郵送し、出た質問にも丁寧に答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して情報交換を行っている。コロナ禍で会議が中止になった際も資料やアンケートにて意見を伺っている。	市町村との窓口は、ケアセンターが一括管理している。2ヶ月に1回、地域密着連絡会があり、他のGHの方も集まるので情報交換の場となっている。LIFEや虐待・身体拘束についての話し合いも行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、全職員が身体拘束について理解し、業務に取り組んでいる。また、夜間以外は玄関や各居室の鍵を開放している。	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束委員会に参加した方が、内容を職員に周知している。やむを得ない身体拘束に対しても、家族の同意を得ている。日中は施錠はせずに、見守り体制を強化している。スピーチロックも取り入れていて、職員がお互いに注意しあえる関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア改善委員会にて虐待について定期的に話し合い、どのような行為が虐待にあたるのかを全職員が理解に努め業務に取り組んでいる。また、職員間で声を掛け合いストレスを溜めないよう互いに気づいた点を話し合える関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、併設施設の社会福祉士を講師に招き研修を開催していたがコロナ禍でもあり、最近では行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に口答及び書面にて説明を行い、利用者や家族が納得した上で契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時及び運営推進会議などの機会に意見を聞いている。遠方の家族に対しては定期的な電話連絡を行っている。	目安箱を設置しているが、直接意見を聞き取ることが多い。現在はリモート面会が中心。電話連絡をした際に、利用者本人と代わることで話す機会を設けている。他の利用者が靴を新調したら、「私も欲しい」と言ったので、家族に連絡をして靴を新調したことがあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会を設置し、業務における意見や要望についての検討を職員で行えるようにしている。また、日々のミニカンファレンスにて提案や検討が行えるようにしている。	管理者は、普段のコミュニケーションを大切にしている。利用者の皮膚のケアについての話やお風呂のマットが欲しいとの意見も反映できた。日々のケアは申し送りノートを活用して、情報を共有している。管理者は職員の意見を吸い上げて稟議書を作成し、事務長へ報告している。職員の有給休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、自己による勤務評定を実施している。また職員の意見や要望を管理者を通じてその都度把握に努め、職員とのコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でもあり、集まっての研修や講演には参加できていないが各種委員会からの文書等で理解、向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に所属しており、情報交換を行っている。また、近隣の事業所とも随時連絡を取り合い意見交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍前はホーム内を案内し、生活ぶりを見ていただいていたが現在はできていない。その為、写真やパンフレットでホーム内の様子を説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施初期には家族との連絡を密に行い、不安や要望等の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望・困っていることなどを伺い、さまざまなサービスがあり利用できることを説明し、利用にあっては他事業所等との連携がいつでもとれることを分かりやすく伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活について本人と職員が一緒になって考え、個人の思いを優先していけるよう信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	土日・祝祭日など、家族が本人と関わる時間を持ってそうな日に連絡を取っている。コロナ禍の為、外出は控えていただいているが面会は感染状況を見ながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため家族以外の人との面会を行っていない。外出もできていない。	近隣の散歩が日課となっている。定期的にSNSを活用して、馴染みの人と話す機会を設けている。リビングの座席が馴染みの場所となっていて、施設内にある畑での菜園を楽しみにしている方もいる。ユニット間を行き来することも可能で、別ユニットの方と昔話に花を咲かせていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で家事・散歩・家庭菜園の手入れ等を共に行っていただくことで自然と助け合い信頼関係が築けるよう協同の場を提供し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて利用相談を受け対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の生活のペースを尊重し、本人の希望に添えるよう努めている。	発語が少ない方へは、「YES、NO」質問で答えやすくしたり、表情や仕草から読み取ったりしている。入居時に家族から生活歴を聞いたり、日常生活の些細なことからも汲み取ったりしている。得た情報は、カルテに記録し、口頭で伝え、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活を通じて、得意なこと・趣味等を本人から聞き取り、家族からも聞き取り、協力していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミニカンファレンスを通じて日頃の生活の様子・状態を職員同士で話し合い、情報を共有し把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のカンファレンスで、個々の状態を職員間で共有し、問題点などを話し合っている。また、カンファレンスシートを作成し、全職員の意見を踏まえたプラン作成をしている。	半年毎にアセスメント、月1回モニタリングを実施している。長期目標を1年、短期目標を半年で設定している。カンファレンスの事前シートの活用や脳リハビリ(計算、クイズ、漢字)に力を入れることで、よりよい介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を観察、記録し御家族とも情報を共有し支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対し、職員間で話し合いを行い、希望に添えるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアを随時募集していたが、現在はコロナ禍の為実践できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族から希望を聞き、主治医を決定している。緊急時には併設病院で24時間受診に対応できる体制を整えていることに加え、その時々々の状態に応じてさまざまな医療機関で受診ができるよう支援している。	母体の病院に全員転医されている。月1回、内科へは通院している。認知外来、泌尿器、整形は必要に応じて受診していて、24時間365日対応して頂けるので安心して任せることができている。訪問歯科も必要に応じて来てくれ安心できる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護師が兼務で配置されており、健康状態を確認してもらっている。それ以外でも状態に変化があれば速やかに報告し、必要に応じて併設病院で診察が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の中で、特変などの状態を早く見極め、医療機関と速やかに連携を図れるようにしている。早期発見・早期対応に努め、治療・入院となった場合は、医療機関の職員に対し情報交換を行い、協働できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者が重度化・急変した場合の対応方針を本人や家族等に説明を行っている。主治医の意見をもとに、そのときの状態に応じて本人や家族、事業所の間で話し合い、今後のケアの方向性を決めている。	看取りはしていないが、何かあれば母体の病院に転院される。入居時に重要事項説明書で同意を得て、「人生の最期をここで過ごせてよかった」と思ってもらえるように、家族や利用者へ寄り添ったケアをしている。併設する施設へ移動されたから、亡くなった方の家族から感謝の言葉が聞けたことが管理者やケアマネの心に残っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異変がある場合は、必ずバイタルを確認し異常の早期発見に努めている。休日や夜間等職員数が少ない時に急変した場合は、併設施設に協力を依頼し迅速に併設病院で対応できる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年2回防災訓練を実施している。また、防災に関する研修を行い、職員の防災に関する意識を高めると共に運営推進会議などで地域代表の方、家族などにも説明し協力をお願いしている。	併設施設と合同で年2回昼夜想定で火災水害訓練を実施し、コロナ対策として職員のみで行った。避難経路は玄関と事務所、ハザードマップと連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、パンや水を3日分事務所にて保管している。	今一度、緊急連絡網を見直してみたいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時にはさりげない声かけや誘導をし、プライバシーを尊重できるよう心掛けている、また利用者様からも言いやすくなるような環境作りを行っている。	呼称は苗字に「さん」付けで、同性の場合は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室へ入る時は、ノックや声掛けをしてから入室するようにしている。利用者の様子に合わせて、ゆっくりとした行動ができるように見守り体制をしいている。排泄失敗時には、「気づかずにごめんね」と言葉掛けをすることで自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言いやすいような雰囲気作りを心掛けており、話を十分に聞ける時間を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースに合わせられるよう日々の申し送りにて確認を行っている。 外出やドライブはコロナ禍で行えていないが散歩や外気浴は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	天候、気温に合わせた服の提案を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに入居者が育てた野菜を収穫したものを食材に取り入れれたり、行事にちなんだメニューを提供している。むせやすい方にはトロミ剤を使用したり、細かく刻むなどの対応をしている。感染予防のため調理の手伝いは行っていない。	三食手作りで、メニューは併設する施設の栄養士が考えている。お茶は利用者がいつでも飲めるようにウォーターサーバーに入れてある。お箸、茶碗、汁椀、コップは馴染みの物を使用している。おやつ作りで、団子やホットケーキを作って喜びが増した。テーブル拭きを手伝ってくれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	散歩後や入浴後には本人の希望を取り入れ、好きな飲み物で水分補給を行っている。また、普段の食事・水分量も本人の希望や状態に応じて対応を個別に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを実施し、必要に応じて歯科医に往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有している。また、それぞれの状態に応じた排泄用品を準備し、日中と夜間で対応方法を変えるなど、自立に向けての取り組みについて家族にも伝え協力を依頼している。	トイレの入り口は広くて、車イスでも出入りしやすくなっている。排泄チェック表を活用していて、排便状況がどの職員が見てもわかるように工夫されていた。日中はオムツで過ごす方はおらず、布パンツの方もいる。ポータブルトイレの使用はなく、家族の方に日中はリハパンやパットで頑張っていると報告している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や散歩、こまめな水分補給をし便秘予防に努めている。便秘傾向の方には受診の際医師に報告し便秘薬を検討していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが、本人の状況や希望を考慮し、ゆったりと入浴できるよう工夫している。	入浴は週2回で、ゆったり浸かることで会話が弾んで、意向が聞きやすい。浴槽は浅く、滑り止めを置いたことでより安全に入浴することができている。季節湯としてゆず湯を提供して喜ばれている。入浴を拒否される方はおらず、体調が悪い場合は、清拭を行うことで清潔感が保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の個々の状態を見ながら、適時休息を取ったり、居室の環境を整え過ごしやすいようにしている。また、休まれる前にはゆったりとした時間を過ごし、手作りの温かい飲み物を提供するなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録にその人の服用されている薬の効能書きを添付している。また、状態の変化や内服薬についての理解を深められるように、カンファレンスの時間に職員間で知識を共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルを職員が把握し、本人の希望をケアプランを通じて職員間で共有し、その人に合った役割や楽しみが持てるよう支援している。また、個々の役割を日々の場面で持てるよう職員一人一人が配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ禍の為外食やドライブが出来ていない。	毎日近隣の散歩をしているが、決して無理強いせず、散歩をされない方は、ウッドデッキに出て外気に触れる機会を設けている。外出に変わるレクも豊富で、午前、午後に分けて実践している。毎日の体操が日課となり健康維持に繋がっている。お正月には、近隣の神社へ初詣に行ったり、餅つき大会を開催したりした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出は自粛している。必要なものは本人に確認しながら職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がサポートしながら、年賀状を家族や友人宛に作成している。また、本人からの希望に応じて電話をかけたり家族からも電話を気軽にかけていただけるよう協力を依頼している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が過ごしやすいよう相談しながら、時々共有スペースのレイアウトを変更したり、創作物や写真、カレンダー、草花などを飾ることで季節感を出したりしている。	毎朝日課の体操を元気よくしている姿を評価員は目の当たりにした。畳のスペースでは、腰を掛けたり、洗濯物を畳んだりして過ごしている。壁面には、職員と利用者が共同して作った、大きな電車の貼り絵が堂々と飾られていた。電車の貼り絵の空いたスペースに四季折々の花を飾ることで季節を感じて頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや畳コーナーがあり、それぞれの場所でゆっくり寛げるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自宅などで使っていたなじみのものを本人や家族に聞き、持ち込んでいただいている。居室でも本人が使いやすいよう配置を考え、心地よく過ごしていただけるようにしている。	エアコン、筆筒が備え付け。ベットや筆筒も同線や安全面を考えた配置となっていた。入り口は、手作りのフェルトで作成したフクロウ(アウル)が置かれていた。誕生日に職員からプレゼントされた色紙を大切に飾ってある。居室で携帯電話を使用して、家族との会話を楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、トイレや浴室も分かりやすく表示している。また、廊下や浴室内には手すりを設置しており、状態に応じて安全に移動していただけるようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790500023		
法人名	医療法人ブルースカイ		
事業所名	グループホーム スマイル (和)		
所在地	香川県観音寺市村黒町750番地		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 26 日	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は様々な取り組みを通じて、認知症の改善・行動障害が軽減し安心して生活ができるよう支援している。具体的な取り組みとして  
①散歩や運動プログラムを日課に取り入れ、体力の低下を防ぐ  
②脳リハビリの実施(日付や曜日の確認から始め、毎日様々なプログラムに取り組んでいる)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3790500023-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 2 月 9 日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院の医療連携に加えて、人と人との絆づくりを大切にしている施設であった。地域の方とのご縁も深く、かつて身近な催しをしていた小岡(こおか)なごみの会に参加して、作品の創作や健康を促す体操を行い、馴染みの関係を深めていた。また再開したいという気持ちがあり、今できることを今しかないと熟していた。「人間関係は、活発なコミュニケーションが必要である。」と管理者は語った。自分をさらけ出し、「考え方や指導の仕方をどうしたらよいか？」と職員に尋ね、柔らかい言葉遣いをしながら、悟るように伝えたら、職員は必ずわかってくれるトーンに変わってきてくれた。スピーチロックも、「働く」原点を「傍を楽にする」という言葉どおり行動することで、スピーチロックにならないようになった。脳リハの一環として、食事や散歩も利用者本人に無理強いをせず、利用者に合わせ、職員も笑顔で、受け止めてきた。しかし、管理者は、信頼関係があると思い、優しく注意したつもりが、「意外に言い方がきつく、インパクトが強すぎます。」との意見を頂き、真摯に受け止めたそうだ。利用者に高い介護を目指すには、日頃からのコミュニケーションが必要であると語る。理想の姿をまぶたの裏に焼き付け、現在の気づきや思いを急がずに、一つ一つ丁寧に充実させ、関係性を深めようとしている。中でも利用者のお悔やみ後に、「ここにいてよかった！」との利用者の家族からの一言付け足した手紙が、涙を誘うだけでなく、管理者、職員の介護の心を静かに後押しした。人の信頼関係に重きを置く施設であった。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝併設施設で開催している法人内介護事業所全体の朝礼に参加。その後グループホームで朝礼を行い、その際に理念を復唱し、ケアの方向性を確認するようにしている。	理念は玄関と事務所に掲示し、朝礼時には復唱している。「体すこやか・脳いきいき・笑顔きらきら、いつまでも」の理念に沿った介護を日々実践している。グループホーム内での毎年の目標も考えている。	今年度の目標を明確化して、地域や外部の人にも知って頂いては、いかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域との交流はできていない。地区の文化祭にホーム内で作ったものを出展し後日見学に行った。	今年度は地元の公民館に利用者と一緒に創作した作品の展示をすることができた。施設から防災訓練に参加してほしいとの要望を伝えたら、地域の方が参加してくれたことがあった。コロナ前には地域のサロンで開催していた、創作活動や体操に参加していた。併設する病院や近隣であった方と挨拶を交わす関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症についての話し合いを行ったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、グループホームの日頃の取り組みなどについて報告し、参加者から率直な意見をいただき質の向上に努めるとともに理解が得られるようにしている。	自治会長、社協会長、老人クラブ会長、地域住民代表、市の職員、民生委員、地区会長、家族・利用者代表、管理者、ケアセンターの事務長が参加している。対面式で短時間での開催。入居者状況、行事の企画、コロナ対策について話合った。不参加の方には書面を郵送し、出た質問にも丁寧に答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、会議を通して情報交換を行っている。また必要に応じて連絡・相談を行うようにしている。	市町村との窓口は、ケアセンターが一括管理している。2ヶ月に1回、地域密着連絡会があり、他のGHの方も集まるので情報交換の場となっている。LIFEや虐待・身体拘束についての話し合いも行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、勉強会等開催している。全職員が身体拘束について理解に努め、日々業務に取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成している。身体拘束委員会に参加した方が、内容を職員に周知している。やむを得ない身体拘束に対しても、家族の同意を得ている。日中は施錠はせずに、見守り体制を強化している。スピーチロックも取り入れていて、職員がお互いに注意しあえる関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア改善委員会にて虐待について定期的に話し合い、どのような行為が虐待にあたるのかを全職員が理解に努め業務に取り組んでいる。また、職員間で声を掛け合いストレスを溜めないよう互いに気づいた点を話し合える関係を築いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、併設施設の社会福祉士を講師に招き研修を開催していたがコロナ禍で、最近は行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に、本人や家族に対し十分に説明を行い、納得していただいた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議などの機会に意見を聞くようにしている。家族には定期的に電話連絡を行い、状態報告をしたり意見をいただいたりしている。	目安箱を設置しているが、直接意見を聞き取ることが多い。現在はリモート面会が中心。電話連絡をした際に、利用者本人と代わることで話す機会を設けている。他の利用者が靴を新調したら、「私も欲しい」と言ったので、家族に連絡をして靴を新調したことがあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種委員会を設置し、業務における意見や要望についての検討を職員で行い、代表者や管理者に報告している。また日々のミニカンファレンスにて提案や検討が行えるようにしている。	管理者は、普段のコミュニケーションを大切にしている。利用者の皮膚のケアについての話やお風呂のマットが欲しいとの意見も反映できた。日々のケアは申し送りノートを活用して、情報を共有している。管理者は職員の意見を吸い上げて稟議書を作成し、事務長へ報告している。職員の有給休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回、自己による勤務評定を実施している。また管理者を通じ職員の意見や要望をその都度把握するよう努め、職員とのコミュニケーションを大切にしている。積極的な資格取得に向けた支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外を問わず医療・福祉等の研修や講演に参加する機会を確保するようにしている。参加できなかった者も、参加者から報告を受けたり資料を読めるようにしたりして知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に所属しているが最近では会議に参加できていない。近隣の事業所とは地域密着型事業所連絡会を通じて意見交換を行うようにしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホーム内を案内し、生活ぶりを見ていただいていたが、コロナのため施設内に入れない為、庭からホーム内を見てもらい、しっかり説明している。本人や家族の意見を聞いたり施設の考えを伝えたりして関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス実施初期は特に家族との連絡を密に行うことで相談しやすい関係作りを図り、不安や要望等の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活について本人と一緒に考え、個人の思いを優先した上で共に生活を送っていけるよう信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備・片付け・掃除など日常生活での活動に加え、季節に応じた作品作りなどを本人と職員と一緒に取り組むことで信頼関係を築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には家族に本人の近況を報告し、内容によっては家族へ協力を依頼している。遠方の家族には電話や手紙にて近況を報告し協力を依頼している。普段から家族に対し積極的に連絡を行い本人との関わりが持てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、行えていない。	近隣の散歩が日課となっている。定期的にSNSを活用して、馴染みの人と話す機会を設けている。リビングの座席が馴染みの場所となっていて、施設内にある畑での菜園を楽しみにしている方もいる。ユニット間を行き来することも可能で、別ユニットの方と昔話に花を咲かせていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で家事や、家庭菜園の手入れ等を共に行っていただくことで自然と助け合い信頼関係が築けるよう共同の場を提供し支援している。入居者の状態に合わせ、できることをしていただき孤立した入居者が出ないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了しても必要があれば本人や家族からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりと十分に話し合いを行いニーズの把握に努め、それに応えられるよう様々な個別プログラムを取り入れている。	発語が少ない方へは、「YES、NO」質問で答えやすくしたり、表情や仕草から読み取ったりしている。入居時に家族から生活歴を聞いたり、日常生活の些細なことからも汲み取ったりしている。得た情報は、カルテに記録し、口頭で伝え、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの日常生活を大切にし、本人が過ごしやすいように家族からも趣味や好きなことを伺い協力していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやミニカンファレンスを通じて日頃の生活の様子や状態を職員同士で話し合い、情報を共有することで日々の生活に本人の力が発揮されるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミニカンファレンスを利用し、個々の状態や問題点などを話し合っている。介護計画の作成・変更の際には本人や家族からの情報も踏まえた上でカンファレンスシートを活用し全職員の意見をまとめて作成するようにしている。	半年毎にアセスメント、月1回モニタリングを実施している。長期目標を1年、短期目標を半年で設定している。カンファレンスの事前シートの活用や脳リハビリ(計算、クイズ、漢字)に力を入れることで、よりよい介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の介護記録や申し送りノートで情報を共有し対策を講じている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの行事の実施や、本人・家族のニーズに対し職員間で話し合いを行うことで希望に沿えるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策を行いながら理美容の出張サービスを利用していただき喜ばれているが、その他の交流はコロナで行えていないため、ホーム内でのゲームやレクリエーションで楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族から希望を確認した上で主治医を決定している。緊急時には併設病院で24時間受診に対応できる体制を整えていることに加え、その時々状態に応じてさまざまな医療機関で受診ができるよう支援している。歯科は往診に来てくれている。	母体の病院に全員転医されている。月1回、内科へは通院している。認知外来、泌尿器、整形は必要に応じて受診していて、24時間365日対応して頂けるので安心して任せることができている。訪問歯科も必要に応じて来てくれ安心できる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックで異常があれば看護師に相談し早期に対応している。また、緊急時も併設病院で24時間診察が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の中で特変などの状態を早く見極め、医療機関と速やかに連携を図れるようにしている。治療・入院となった場合は医療機関の職員に対し情報提供を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、入居者が重度化・急変した場合の対応方針を本人や家族等に説明を行っている。入居後もその時の状態に応じて本人や家族、事業所の間で話し合い、主治医の意見も踏まえた上で今後のケアの方向性を決めている。	看取りはしていないが、何かあれば母体の病院に転院される。入居時に重要事項説明書で同意を得て、「人生の最期をここで過ごせてよかった」と思ってもらえるように、家族や利用者へ寄り添ったケアをしている。併設する施設へ移動されてから、亡くなった方の家族から感謝の言葉が聞けたことが管理者やケアマネの心に残っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には必ずバイタルを確認し、看護師に相談するようにしている。休日や夜間の急変時にはマニュアルに従い迅速に病院と連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年2回防災訓練を実施している。また、防災に関する研修を行い、職員の防災に対する意識を高めるとともに、運営推進会議などで地域の代表の方、家族などにも説明し協力をお願いしている。	併設施設と合同で年2回昼夜想定で火災水害訓練を実施し、コロナ対策として職員のみで行った。避難経路は玄関と事務所、ハザードマップと連絡網は事務所に掲示している。備蓄は、パンや水を3日分事務所にて保管している。	今一度、緊急連絡網を見直してみたいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スマイルにおけるケアの基本姿勢を朝礼の際に唱和することで意識づけをしている。また、職員間でも気づきがあれば互いに声を掛け合い丁寧なケアを行えるようにしている。	呼称は苗字に「さん」付けで、同性の場合は下の名前に「さん」付けで呼んでいる。居室へ入る時は、ノックや声掛けをしてから入室するようにしている。利用者の様子に合わせて、ゆっくりとした行動ができるように見守り体制をしいている。排泄失敗時には、「気づかずにごめんね」と言葉掛けをすることで自尊心を傷つけないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言いやすいような雰囲気作りを心掛けており、話を十分に聞きつつ自分で決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝紅茶やコーヒー等を飲みながらゆったりと世情の話をしたり、大まかな一日の流れを説明した上でその日の過ごし方を相談するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は施設の散髪サービスを利用している。化粧品は今まで使い慣れたものを継続して使えるよう家族に依頼したり、定期的に小遣いから購入したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとに入居者が育てた野菜を収穫したものを食材に取り入れたり、行事にちなんだメニューを提供している。むせやすい方にはトロミ剤を使用したり、細かく刻むなどの対応をしている。感染予防のため調理の手伝いは行っていない。	三食手作りで、メニューは併設する施設の栄養士が考えている。お茶は利用者がいつでも飲めるようにウォーターサーバーに入れてある。お箸、茶碗、汁椀、コップは馴染みの物を使用している。おやつ作りで、団子やホットケーキを作って喜びが増した。テーブル拭きを手伝ってくれる利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事メニューを管理栄養士が作成している。個別に量や好み、食材の大きさなど調整している。水分は食事以外でも摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い口腔ケアを実施している。その時の状態に応じて介助を行ったり、必要があれば歯科医の往診にも対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、職員間で情報を共有している。排泄チェック表で確認しながら声かけも行っている。それぞれの状態に応じた排泄用品を準備し、日中と夜間で対応方法を変えるなど行っている。	トイレの入り口は広くて、車イスでも出入りしやすくなっている。排泄チェック表を活用していて、排便状況がどの職員が見てもわかるように工夫されていた。日中はオムツで過ごす方はおらず、布パンツの方もいる。ポータブルトイレの使用はなく、家族の方に日中はリハパンやパットで頑張っていると報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や散歩・体操といった運動を行い、便通を促すよう対応している。長期間の便秘には特に気を付け、申し送りにて職員間での共通理解・支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の状況や希望を考慮し、ゆったりと入浴できるよう工夫している。また、季節感を味わえるよう果物を浴槽に浮かべて入浴している。	入浴は週2回で、ゆったり浸かることで会話が弾んで、意向が聞きやすい。浴槽は浅く、滑り止めを置いたことでより安全に入浴することができている。季節湯としてゆず湯を提供して喜ばれている。入浴を拒否される方はおらず、体調が悪い場合は、清拭を行うことで清潔感が保たれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心掛け、散歩や脳リハ等日中の活動に参加していただき、夜間良眠できるよう支援している。また個々の体調に応じて、短時間臥床する時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に服用している薬の効能書きを添付し、すぐ確認ができるようにしている。また、状態の変化や内服薬についての理解を深められるようにカンファレンスなどで気づいたことや疑問に思ったことなどあれば職員間で知識を共有したり看護師や薬剤師に相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割や楽しみ、力の発揮がなされるようケアプランを通じて職員間で共有し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、散歩・受診以外での外出支援は行っていない。	毎日近隣の散歩をしているが、決して無理強いせず、散歩をされない方は、ウッドデッキに出て外気に触れる機会を設けている。外出に変わるレクも豊富で、午前、午後に分けて実践している。毎日の体操が日課となり健康維持に繋がっている。お正月には、近隣の神社へ初詣に行ったり、餅つき大会を開催したりした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナで外出できないため、必要なものがあれば職員が代理で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状などを職員がサポートしながら制作している。本人の希望に応じて電話をかけたたり、家族からも電話を気軽にかけていただけるよう協力を依頼している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに、時期ごとの創作を飾ったり、個々の作品・写生などを飾ったりしている。また、自室入り口には、月ごとの季節感を作品にしたものを飾ったりしている。	毎朝日課の体操を元気にしている姿を評価員は目の当たりにした。畳のスペースでは、腰を掛けたり、洗濯物を畳んだりして過ごしている。壁面には、職員と利用者が共同して作った、大きな電車の貼り絵が堂々と飾られていた。電車の貼り絵の空いたスペースに四季折々の花を飾ることで季節を感じて頂いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファがあるほか、ウッドデッキにはベンチを設置している。それぞれの場所で入居者同士でゆっくり過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使っていた物など馴染みのものを、持ち込んでもらっている。居室の配置も、本人が使いやすいようにその都度移動したりしている。	エアコン、筆筒が備え付け。ベットや筆筒も同線や安全面を考えた配置となっていた。入り口は、手作りのフェルトで作成したフクロウ(アウル)が置かれていた。誕生日に職員からプレゼントされた色紙を大切に飾ってある。居室で携帯電話を使用して、家族との会話を楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等、分かりやすいように表示を行い混乱を回避している。居室等の場所がわからない入居者にはさりげなく誘導するようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない